

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、中村 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。〔15番 中村 実君登壇〕

○15番（中村 実君）

創生クラブの中村です。

本日の最後の一般質問になりますが、もうしばらくよろしくお願ひいたします。

まず、質問に入る前に、1月1日午後4時10分に発生した能登半島地震において、多くの方々が被災し、またお亡くなりになられた方々に心よりお見舞いとお悔やみを申し上げますとともに、早期の復旧・復興をお祈り申し上げ、私の1回目の質問を行います。

1、能登半島地震と糸魚川市の地震対策について。

1月1日16時10分に発生したマグニチュード7.6の地震は、糸魚川市でも震度5強と今までに経験のしたことのない大きな揺れで、市内でものり面ブロックの崩壊や液状化現象、棟瓦の落下やブロック塀や石灯籠などの転倒、また海では刺し網や定置網・漁船の損傷など、多岐にわたる被害が発生してしまいました。また今後いつ発生するか分からない余震に備え、早急に復旧・復興を進める必要があります。また、今後、能登半島地震の教訓を糸魚川市にどのように生かしていくのかが大きな課題だと思います。もう既に新たな対策は進んでいるのか、今回の能登半島地震の被害状況を見て、糸魚川市でも改めて見直すところも多くあると思います、以下の点について質問を行います。

(1) 筒石地区ののり面強度や国道沿い地滑りの危険箇所の確認と対策は済んでいるのか伺います。

(2) 漁港関係の被害は把握しているのか伺います。

(3) 津波避難方法について、どのような対策を考えているのか伺います。

(4) 飲み水やトイレ・風呂など水関係の対策について伺います。

(5) F41上越・糸魚川沖断層をどのように捉えているのか伺います。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

中村議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、筒石地区のり面は、県による対策工事が実施されております。

また、国道沿いの危険箇所は、県により土砂災害防止法の区域指定の際に調査が行われております。

2点目につきましては、市内5つの漁港で、漁港護岸の破損や漁船の損傷、漁具の流出等を確認しており、必要な支援を予定しております。

また、3点目につきましては、原則、徒歩でより高いところへ避難するよう、引き続き周知してまいります。

4点目につきましては、飲料水や簡易トイレは、一定量の備蓄を行っておりますが、大規模災害発生時には、支援が行き届かないことが想定されることから、家庭における備蓄について、広報いといがわ2月号で改めて周知いたしております。

5点目につきましては、県が令和元年から4年3月にかけて調査した地震被害調査結果報告書が公表され、F41上越・糸魚川沖断層を震源とする地震が想定されております。当市においても、震度7の地震により甚大な被害が発生する可能性があることから、大地震・大津波への対策が必要であると捉えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。〔15番 中村 実君登壇〕

○15番（中村 実君）

（1）の質問から入らせていただきます。

今ほどのり枠の質問をしたわけですが、過去にのり枠の説明会が何度か行われています。地元の方からは、のり枠の震度は幾つまで耐えられるか。のり枠が落ちてこないのか。このような質問が多く上がっておりました。県のほうでは、どこを見ても、のり枠に対しての耐震基準がないので、幾つまでもつのかということと言えないと。筒石の場合は、非常のときにサイレンが鳴りますので、そのサイレンを聞いたらず避難していただきたいというような答弁がされておりました。

今ほどの市長答弁の中でも、震度7以上の地震が来るのではないかと話がありましたが、あの場所は土砂災害ではなくて、のり枠が落ちてくるのではないかとことなので、改めてまたお聞きしますが、幾つまでの震度に耐え得るのり枠なのか、お聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

筒石地区で行われております、のり面対策工事、県で実施しておりますが、県は、治山事業におけます法令ですとか各種基準、規則に従いまして、構造物の形状ですとか補修工事の施工方法を決めていると認識しております。

ただ、林野庁の基準の中には、まだ耐震基準というものがございません。ただ、劣化が進むと強度も落ちてまいりますので、老朽化ですとか破損箇所が発見された場合は、早急な補修を行うことと。当然、これからの技術の進歩によりまして、新しい工法や設計基準等も出てきますので、そう

したものへの早期転換が、今後必要であるかというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

震度幾つまでというのは、なかなか言いづらい。でも能登半島では、震度7以上の地震が発生していますので、多分あの辺でも、のり枠が落ちてきたり、そういう事例があるかと思うんですよね。そういうのも情報として入れながら、どれぐらいでのり枠が落ちるのかということも調べていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

先ほどの、糸魚川沖の断層が動くと、5分以内に津波が来るといふふうに言われていますが、このような状況で、海のほうから津波が押し寄せてくる。また、大きな地震でのり枠が山のほうから落ちてくるということで、今のところ法尻のほうに、H鋼で柵がしてありますけど、あの柵が低いんですよね。だから、どの程度落ちてきたら、あれを乗り越えるのかというのがちょっと分かりませんが、もう少ししっかりした落石防護ネット等を設置する必要があるんじゃないかというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

確かに工法といたしまして、のり枠工法もございますし、金網等を設置する工法もございます。どのような工法が最も効果的であるかという検討というのは、今後は必要になってくると思います。県のほうでも現地のほう確認いたしまして、のり枠工法、ネット柵、金網等の工法を検討しておりますので、今後も地域の皆様の不安が払拭されるよう、県・国のほうへも市としては要望してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

今回の地震で、5強の地震で小泊の尾山、あそこから大きな巨石が2つほど落ちてくるのが目視されているんですよね。前の地区長が、たまたま港にいたら大きな揺れがあったんで、尾山を見たら尾山が大きく揺れて、巨石が2つほど落ちてくるのが確認できた。その辺りに落ってるかどうか分かりませんが、それは一応、あの辺は大きな木があったんで、その木に当たって、木も折れるから、そこが当たって折れたんだと思うんですけど、小泊の場合は、しっかりした落石防護ネットを設置していただいたんですよ。だから、もしかしたら落石防護ネットで防いでるのかもしれないし、小泊の尾山の法尻に設置した落石防護ネットくらいのを筒石でも設置していただきた

いというふうに思うんですが、改めてお聞きしますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

小泊地区の尾山の山腹の崩壊につきましては、平成27年頃だったかと思います。一部落石がありまして、その後、県の治山事業ということで、最初、緑のぼんそうこうから始まりまして、令和2年に完了しておるといふふうに確認しております。下のほうに張られとるネットにつきましても、高吸収ネットということで、かなりグレードの高いものを使っていたいております。

ただ、のり面の高さですとか幅等の問題もありますので、どうした工法が一番いいのか、その辺り私どもも筒石の皆さん、不安に感じておるといふことで、県のほうへは声がけさせていただいておりますので、引き続き県のほうへお願いしていく中で、どうした工法が一番有効で、また市民の皆様のお安心につながるのか、県のほうへ引き続き要望してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひ県のほうとよく話して、今の現状のままでなくて、何か対策を取ることによって地元の人も安心できるのかなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

今回、茶屋ヶ原ののり面崩落、1か月近く通行止めになりましたが、糸魚川市の国道沿いにも、筒石を併せて何か所も国道沿いに切り立った危険な箇所があるというふうに思っております。筒石から小泊、そしてこの端とか、崩山も、課長も見て分かるように、雨で抜けたのか地震で抜けたのか、3か所ぐらいの抜けどころが見えますよね。ああいうこともあったり、あれは崩山というぐらいで、崩れる山なんですよ。そういうものが、青海から市振にかけても点在してると思うんですね。そういうところの調査も、先ほどの答弁で調査もされたということですが、今後、もうその調査で終わりなのかどうか、その辺をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

今ほど議員おっしゃられたとおり、国道8号の沿線には、かなり危険な箇所が多く見受けられます。国道の維持管理のほうにつきましては、定期点検のほかにも異常事態が発生したときに、点検、パトロールを実施しているところがございます。

今ほどおっしゃられたとおり、あれで終わりというわけじゃなくて、引き続き危険箇所につきましては、国のほうに点検のほうを働きかけさせていただきまして、調整のほうを進めさせていただ

きたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

市の職員でも、通勤に通ってる道だとすれば、国道を走りながら、よそ見になるのかどうか分かりませんが、山肌を見れば、何か変化があれば、木が倒れてるとか、少しずれてれば、草木で地肌が見えるとかという、そういう状況が見えますので、ぜひそういうものも気をつけながら見ていただきたいというふうに思っておりますし、現地に詳しい地滑り監視員がいますよね。そういう地滑り監視員にも気をつけて見ていただける、どっちかという山の方へ上がって、地滑りを見るというところだと思うんですけど、その辺もお願いしていただきたいというふうに思っております。8号線と高速道路が通れなくなると、茶屋ヶ原のような状況になると大変困りますので、それから、それと併せて抜け道があると思うので、抜け道の状態も確認していただければなというふうに思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えいたします。

今ほどおっしゃられましたとおり、抜け道といいますか迂回路等も必要であるというふうに考えておりますけども、あわせて、この災害が起きたときは、早急な復旧作業とか、あと効率的な通行情報の広報などを国、県と共に様々な状況に応じまして、対策のほうを検討していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

迂回路ですよ。グランfondで使っている道をあれすれば、ある程度迂回ができる部分も相当あると思うんですよ。そういうところのやっぱり整備も、例えば特に雪解け、それから大雨、台風とか、その後にしっかりと点検しながら、落石とか倒木とか、そういうものがないかどうか確認し、あったらすぐに復旧しておかないと、いざというときにもう通れないという事態が発生しますので、そういう農道の管理と併せて、そういうところもぜひやっていただきたいと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

星野農林水産課長。〔農林水産課長 星野剛正君登壇〕

○農林水産課長（星野剛正君）

お答えいたします。

今ほど言われましたように農道、林道の中には集落間を結ぶ、いわゆる何か災害があった際には迂回路として機能しとる道路もたくさんございます。私どもも、台風ですとか大雨の後には、道路パトロールということで現地をパトロールいたしまして、災害発生箇所が確認されれば、すぐ災害復旧等の対応して、通行に支障のないように努めておりますが、今後も今言われるような大災害での迂回路としての機能を維持するための災害復旧等には努めてまいりたいというふうには考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

地震のときも小泊の人の多くは、廃線敷から上のほうへ逃げたんですよね。そして、大王のほうへ抜けたかったんですけど、あのときはちょっと雪もあつたりしたんでちょっと抜けられなかった。今状況を見ると、倒木が相当あるんですよね。そういうものもやっぱり早め早めに片づけていただければ、災害がもしあつたときに、地震だけじゃなくてね、災害があつたときに迂回路として使えるのかなと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、漁港関係、今ほど漁具とかそういうものに、今後必要な支援をしていくということでありました。今回は、刺し網がなくなったり、それから、定置網のアンカーロープ、それから船が壊れたりということがありましたが、支援をしていただけるとのことなんで、よく検討していただきたいなというふうに思いますけど、せっかく出漁してもコロナや地震の影響で、魚が非常に安いですよね。漁師を、漁業者を助けるということで考えれば、先ほどお昼休みにNHKで近江町市場で地元の魚を販売しているというのをやってみました。地元の魚を食べて、能登を元気づけようということであります。ぜひもう少し、東京方面とか、また糸魚川市内でもおいしい地元の魚を食べて元気づけよう、そういう対策も取っていただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

市外に向けましては、漁港さんを含めまして、長きにわたる販路拡大の取組によりまして、独自に首都圏や関西圏などに、また近隣などに、取引先をお持ちの事業者もございます。その方たちは、汗をかきながら営業しまして、さらに糸魚川産の魚介類の価値を理解していただき、これまで取引が継続されているものだというふうに思っております。

また、市といたしましては、首都圏や関西圏等に糸魚川産品、ジオフードの魅力発信イベント等を引き続き行うことで、また、ECサイトや展示会補助などの販路拡大の支援も、引き続き努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

今日の新聞でしたかな、名立の甘エビ、南蛮エビが大きく写真入りでおいしく出ていましたね。やはり能生も、エビが結構捕れると。能生のエビは、上越漁港のエビは、底引きで引くもんですから、少し身が押されてというところあるんですけど、糸魚川のエビは、籠で捕ると非常に鮮度がいい。そういうものもしっかりとPRしながら、特に都会へPRしながら、ぜひお願いしたいと思いますし、ベニズワイもそうですよね。今回、ベニズワイ、一度籠を見に、漁師の方が行ってきました。とりあえず、今んとこ籠は問題なく、また、餌をつけてきましたが、ただ、それは年前に入れた籠を上げたんで、カニが入ってて当然なんですよ。今、今度、入れたのに、餌をつけて入れたカニが、3月1日から解禁になるんで、それを上げたときに、果たしてそれにカニが入っているか。海底の状況は分かりませんがね。だから、やはりカニが、今後、糸魚川の目玉であるカニが、捕れるか捕れないか、次の漁にかかっていると思いますので、カニもPRしていただきたいというふうに思っております。

次に、津波の避難方法についてですが、安全のために、先ほどから答弁の中で高いところへ早く避難するという、これは当然なことなんですけど、東日本大震災では、津波の遡上高は40.5メートルだったそうです。この辺で40.5メートルという、どの辺になるのか分かりませんが、私ら小泊みたいところは、高台へ上がれば40メートルでもいけるかもしれませんが、例えばこの糸魚川市内、この平場の人たちが40メートルまで逃げるということは、容易じゃないと思うんですよね。これから大きな津波が来たときに、40メートルじゃなくても10メートル、15メートルの津波が来たときに、こういう平場の人たちがどのように避難したほうがいいのか。避難ビルもありますけど、そういうところの周知をどういうふうに行っていくのか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

40メートルの津波遡上高は、私も想像できず、ちょっとどのように避難したらいいかといったところは今答弁はできませんけども、そんな中で、盛んに出ておりますF41上越・糸魚川沖断層につきましては、最高で糸魚川では、代表地点で藤崎の10.6メートルですか、そんな中で、やはり徒歩でより高いところへといった避難が有効かと思えます。

そんな中で、今、藤崎という話が出たんですが、藤崎地区というか磯部地区につきましては、自転車道路が10メートルちょっとですかね、まず、その自転車道路へ逃げて、次の避難場所へ移動していただくといったところも聞いております。その地区に合った避難方法があるかと思えますので、そのように周知をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

久比岐自転車道、また後でちょっと質問しようと思ったんで、また後に回しますけど、糸魚川市では6,000人以上が避難したということで、消防では43地区に聞き取り調査を行っているということですが、現在、もう43地区を回ったのかどうか、何地区の聞き取りが終わり、どのような意見が多かったのか、それをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

43地区中、都合のつかなかった2地区を除く41地区から聞き取りは終了しております。多かった意見といたしましては、盛んに出ております市の情報が少なかった。また、避難場所の鍵の開錠といったご意見をいただいております。

また、地区の課題といたしまして、地区の高齢化による高齢者の避難、また、家庭や地区の備蓄等といったようなご意見をいただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

そのような情報をいただきながら、6月23日に能登半島地震を想定した避難訓練を行うということですが、今言われたようなことを実際にどうすればいいかというところまでの避難訓練につなげていくのかどうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

今回の地震・津波警報を受けた避難行動を各地区、また自主防災組織での課題を検証いただいた中で、その対策を図ることを目的に実施を予定しております。

内容といたしましては、まず、地震発生時の自分の身を守る、ダンゴムシポーズという、いわゆるシェイクアウトですか、そういった訓練。その後、海岸部につきましては、津波警報発表による避難、また、住宅密集地におきましては、地震による火災初期対応、また、中山間地につきましては、地震による土砂災害を想定した避難訓練、その他、非常持ち出し袋の確認、また消防団との連携、情報伝達等を予定しております。

いずれにいたしましても、その地区に合った、今回の検証を受けた訓練を実施していただきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

地区地区で内容が違うんでね、やっぱりその地区に合ったものというふうになると思うんですけど、私が心配してるのは、例えば自転車道のあるところは、大体、自転車道が10メートルだというのを私は頭に入っている。10メートルだから、自転車道まで逃げて、そこから高いところへ避難すると。心配するのは、河川の周りの避難、要は津波が川を遡上したときに、河川の周りというのは大体平地が多いですよ、平地が。そうすると、高台に逃げるといのは容易じゃないと思うんですよ。その辺の避難方法をどういうふうに考えているのかなというのがちょっと気になったんで、それをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

河川を遡上ということで、筒石川の河川遡上がテレビでも出ておりましたし、また、聞き取り調査の中では、徳合川にも遡上したということで、私、写真も見せていただきました。

いずれにいたしましても津波避難と同様、大きな地震が発生しましたら、まず、河川から離れていただく。それから、できるだけ原則、徒歩で高いところ、あれば高いところへ避難していただくといった対応になるかと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

今、消防長が言われたみたいに、河川から離れていくのが一番だと思うんですよ。例えば姫川沿いの人たちは、河川から離れても、相当平らなところを走らないと高場へ行けないんですよ。そういうときの避難方法、だから市内には何か所の避難ビルがあるか分かりませんが、やはり垂直避難をできる場所には、そういう指導も話をしたいというふうに思います。糸魚川市内に避難ビルは何か所あって、今回、避難ビルに避難した人というのはいるんでしょうかね。1月1日だと、私の知ってる糸魚川市内の人は、隣が避難ビルなんですけど、鍵が開かなくて美山に走ったという人もいますので、そういう避難ビルに避難した人というのはいたもんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

津波避難ビルにつきましては、24か所指定をしております。そのうち、把握しているところでは15か所に避難したというふうに聞いております。また、ほかの施設でも、RC造りの3階建て以上の建物があれば避難したと。ちょっと把握はしていませんが、そのような情報も聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

だからやっぱりこういう平場の、なかなか高台に逃げられない人たちには、やはりどこに避難ビルがあって、そこへ避難するよというふうな、そういう話もしっかりしていく必要があるというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

市民は、大体、津波ハザードマップを見て避難路を、自分のうちの避難路をある程度、家族で話し合いをしているというふうに思うんですね。

ただ、私も改めて見てみたんですけど、津波ハザードマップは、大変地図がちっちゃくて見づらいんですね。10メートル、30メートルというふうにラインが入ってるんですけど、家の形が見えないので、どこが10メートルなのか、30メートルなのかよく分からないんですね。だからもう一度、津波ハザードマップを確認していただいて、もう少し市民が見ても、ほかの地域はともかく、自分の地域だけでも見やすいような、そういうマップにする必要もあるし、やはりそこに10メートル、30メートルじゃなくて、20メートルラインも、もし入れば、そのほうが避難しやすいと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

まず、ハザードマップの見直しは、現在のところ考えておりません。

ただ、小さくて見づらいといったようなご意見もいただいております。そんな中で20メートルラインを引くかどうかというのは、ちょっとここではご答弁できませんが、中村議員お膝元の小泊地区で、過去、木造密集住宅、ワークショップ等、小泊地区の方から一生懸命していただき、また、防災地図なんかも作っていただきました。そういった手法もありますので、もちろん個々で考えていただきたいんですが、地区でハザードマップを参考に、地区の防災マップを作っていただくといったところも一つの手法かと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひそのやり方もいいと思いますよね。また今度、津波ハザードマップを、もし作り変えるとき、国・県のほうの指導があつて、作り変えるときは、やはりもう少し見やすいものにしていただきたいと思います。今すぐとは言いませんけど、やはり地区に合ったものを地区で作るというのも大事だというふうに私も思っておりますが、とにかく海拔表示板がない。私もこの地震で、改めて海拔表示板、車で走りながら見ましたけど、まず少ない。それから非常に見づらい。もう少し海拔表示板を、これどこの予算でやってるのかね、増やしていく必要があると思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

海拔表示につきましては、最初に設置してから10年程度たっているかと思います。当然、見にくいものもあれば、今回の地震を受けて、少ないといったところもありまして、今回の聞き取り調査の中で、海拔表示の更新や増設の願いをしましてまいりました。そんな中で要望も確認しながら、対応を検討していきたいと思います。市の予算で作って、地区の方から設置していただくことを基本に考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

国とか県の補助金でという時間がかかると思うんですけど、市の予算で作るんならそんなに、枚数も相当必要があるんでお金もかかると思いますが、なるたけもう少し大きくして、見やすい海拔表示板。それから、車で見てても、見上げないと、歩いてでもそうなんですよ。その電柱を見上げないと見えないという、もう少し下げて、歩いてでも見えるような目線の高さにしないと、頭へ入ってこないと思うんですけど、やっぱり次そういうものを設置するなら、もう少し下げて、低いところで設置していただければありがたいというふうに思っています。

次に、私、その後にマリンドリームに行ってみましたよ。私の見間違いかどうか分かりませんが、マリンドリームに1か所だけ海拔表示板と避難場所の看板というか、電柱にありました。荒崎キャンプ場に避難してくれということが書いてありましたが、市内の人は、荒崎キャンプ場と言えば分かる人もいるかと思うんですけど、市外から来た人に、あの揺れのさなかに、荒崎キャンプ場へ逃げてといったって、荒崎キャンプ場がどこか分からないですね。

人間が多く集まる場所ということで、上越市では、能登半島地震に関する連絡調整会議というのを開催いたしまして、釣り場として開放している東防波堤避難計画を検討したということです。ハザードマップの掲示や、いざというときに大型スピーカーで呼びかけるというようなことを予定しているようです。

糸魚川でいえば、マリンドリームやピアパーク、そういう多くの人が集まる場所があるんです

が、こういうところの津波の安全対策、これはどのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

マリンドリーム能生の第1次避難所は、ご指摘のとおり荒崎キャンプ場でございますが、マリンドリーム区域内の従業員は、定期的に避難訓練を行っていることから、市外から来場された施設対象者に対しましては、適切な避難誘導を行える体制になっているというふうに思っております。

しかし、災害時の避難周知方法は、現在、館内放送しかないことから、本年度策定のマリンドリーム能生周辺整備計画における防災機能充実の項目の中で、屋外用放送設備の整備など、防災拠点としての機能拡充のほうを検討してまいりたいと思っております。

なお、ピアパークにおきましては、既存の屋外用放送設備を活用した避難体制を防犯・防災マニュアル等に基づき、運用しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

年間に50万人とか70万人とか来客されるんですよね。そういったところに1枚だけ、高いところにぽつんとあったんじゃ、誰も気がつかないよね。もう少し見やすいところにつける必要もありますし、私が見落としだったら申し訳ありませんけど、1か所ではなく、小泊地区で毎年、避難路、カニかに館のもうちょっと先かな、ところから、小泊のお宮さんに抜ける避難路を整備してくれという要望をずっと何年も出してるんですよ。今回も、今回というか去年ですけどね、出しましたけど、それもまた却下された。そのときも話したんですけど、小泊の人たちだけの避難通路ではなくて、マリンドリームに大勢のお客さんが来たときに、こういう津波の逃げるようなときがあったときには絶対必要な場所だから、ここをもう少し避難路としてしっかり整備していただきたいというふうをお願いいたしました。

市長もその会議に出席されていたというふうに思うんですけど、市長どうですか、マリンドリームに1か所しか今ないわけですけど、もう一か所やはり、つけるとしたらそこしかないんですよ。その辺の対策を今後考えていく必要があると思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに今の現状では、まだシーズンではございませんので来客が少ない状況ではありますが、多いときにはたくさん来られるわけでありまして。そのようなときに発生した場合には、やはり1か所というのはいかがかと思っておるわけでございますので、それが逆に集中して、どうなるかという

ころもまた考えなくちゃいけない部分でありますので、いろんな想定する中で、どうあるべきかというの、検討をしてみたいとは思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ぜひマリンドリームの整備計画と併せて、早急に本当はやったほうがいいんですけど、整備計画もありますので、その辺と併せて進めていただきたいと思ひますし、ぜひ1か所ではなく2か所もできるようなことをお願いいたします。

次に、（4）の水関係ですが、今回の能登半島地震が発生した後の1月19日に、私と近藤議員と七尾市へ視察に行つてまいりました。七尾市の木下敬夫議長のほか3人から地震で困つてゐることはどういふことですかというやうな話を小一時間したわけですけど、テレビ等でも報道されてゐるやうに、やはり飲み水やトイレ、風呂に入れないう、そういったことを言つておりました。木下議長も被災されて、避難所にいるというやうな話もしてございましたけど。このやうな、テレビでも報道されてゐますけど、このやうな報道を見て、糸魚川市の水の対策、飲み水、それからトイレ、そういう対策というのはどういふふうになつてますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

お答えいたします。

今回の地震に伴う市内の断水では、私どもの応急給水や地元業者による復旧作業で速やかに水を確保することができましたが、能登半島のように広範囲に断水した場合には、当市単独での水の確保は困難になりますので、各関係団体へ支援を要請して、対応のほう、当たりたいと思ひます。支援をお願いした団体と協力して、復旧作業のほうに努めるわけですが、当然、通常の災害よりも時間はかかるかと思ひますが、少しでも早く水の確保ができるやう、しっかりと対応するやうにしたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

上下水道の耐震化をどんどん進めてもらつてゐるというふうと思つてゐます。先ほど、ほかの議員の答弁にもありましたやうに、ただ、震度幾つまで耐えられる耐震工事なのかというのをちょっと心配なんです。とりあえず今回、5弱には耐え切れたわけですけど、例えばこれが6だったり7だったりしたときに耐え得るのか、震度幾つまでの耐震工事なのかというのを分かれば教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

お答えいたします。

水道、下水道の耐震設計指針では、レベル2の地震動に対して、管路に多少の被害があっても通水機能や流下機能が確保される状態であれば、耐震性能を有すると定義されております。このレベル2の地震動といいますのは、マグニチュード7クラスの地震を想定しております。震度との明確な関連性はありませんが、あえて関連づけるとすれば震度6強から7相当になるものと思われま

す。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

震度7クラスというのと相当耐えられるということですよ。それはありがたいことですが、ただ、やはりどこか壊れると思うんですよ。そういったときに、やはり業者とよくタイアップしながら、早急に管路の復旧、そういうのができる体制を取っていただきたいというふうに思っております。

また、トイレ等が使えなくなったときに、マンホールトイレですよ。マンホールトイレは、市内に何か所整備されているのか、また、断水のときでも、マンホールトイレ、私、設置してあるのを視察と一緒に見させていただいたんですけど、断水でも使えるのかなというのを今回初めて思ったんですけど、それはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

お答えします。

市内のマンホールトイレは、現在、防災拠点や指定避難所等7か所に、延べ33基整備されております。

また、断水であっても、災害の初期段階では、くみ取り式トイレと同様な使い方で使用は可能ですけれども、使用期間が長くなってしまいますと、衛生上の観点ですとか、し尿を流すために水が必要になってまいります。

ただ、この水は、水道水でなくても雨水や用水、河川の水、あるいは学校のプールの水などでも利用が可能です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

今7か所、7か所だと、能登半島地震を見るとちょっと少ないですよ。今後、避難所というところに、やはりできれば2か所、男女1か所ぐらいずつは整備していく必要があるというふうに私

は思っているんですが、今、水がなくても使えるということで、どっかから水をくんで来て流せばいいんですけど、管さえしっかり通ってれば、それが可能だというふうに思いますので、ぜひ今後、整備を進めていただきたいと思います。

七尾に、私知り合いがいて、女性の方なんですけど、行って、話を聞きましたら、男性はどこでも用が足せるからいいんだけど、女性は大変だと。女性はなかなかできないんで、体調を崩す人がいるというんですよね。やはりそういうことも考えて、計画的に増やしていただきたいと思いますというふうに思います。

最後に、(5)になります。F 4 1 上越・糸魚川沖断層。

能登半島地震の後に、何度かこのF 4 1で地震が発生していました。能登半島の余震ならいいなというふうに私は思ってるんですけど、もしこれが単独で、断層がずれているのではないかと心配もしております。

地震対策は、どのような地震対策が必要なのか。今ほど、相当大きな津波が来るということでありますので、津波の心配はしなくていいんですけど、市としてF 4 1に対して、何か新たな情報というのはいないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

今のところ情報はありません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

何か情報あったら、早めに広報でも何でも知らせていただきたいと思います。

先ほども話がありましたけど、藤崎で10.6メートル、海水浴場で。境川と青海川が8.2メートルというふうに言われていますので、やはり早く対策を取っていただく必要があると思いますけど、東日本の死因の90%は津波だということです。多くの方が亡くなられましたが、阪神・淡路では、建物の全壊と半壊、それで24万棟6,000人以上の人が亡くなられたということですよね。倒壊すると、窒息と火災で焼死するということでもあります。

多分、糸魚川市も5弱なら何とか地震対策してなくても耐えているんですが、これが6を超えると、相当に家屋が潰れるというふうに言われていますが、そういったときにどのような避難、また耐震化計画を進めていく必要があると思いますが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

耐震化の部分でお答えいたします。

先ほどの田原議員のご質問の際にも、糸魚川市の耐震化率は県内の平均より劣るというようなお話もさせていただきました。

地震から命を守るというのには、やはり揺れたときに家が倒れない、倒壊しないというのが大事だと思います。津波は分単位ですけど、倒壊というのは秒単位で倒壊するというふうに言われておりますので、避難する前に決まってしまうというような状況です。そのための耐震化ですので、糸魚川市の耐震化率を高めるために、今、制度もございしますが、なかなか使いづらいというようなお声もいただいておりますので、その辺の改善を図ってまいりたいというふうに今考えておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

ちょっと休憩中に課長にもちょっと話したんですけどね、耐震化するには、どういうふうにするにいいんだと。耐震調査をして、それから耐震にかかると。その辺をもう少し小さな耐震でもできるんで、もう少し簡単にできる方法もぜひ進めていただきたいというふうに思っております。

また、阪神・淡路では、建物が潰れて、火災が起きて、多くの方が亡くなられた。それに私、前にもこの質問したことあるんですけど、今、その耐震化と併せて感震ブレーカーの設置、この感震ブレーカーというのは、感じる地震と書いて感震ブレーカーというふうに言われています。大きな揺れがあると感震ブレーカーが落ちて、電源が入らない。阪神の場合は電力会社が、ある程度、時間たってから電気を入れたら、あっちこっちで火災が起きてしまった。そういうのをなくするために、こういうブレーカーの設置も補助制度をつけていく必要があるのではないかなというふうに、調べると、ほかのところでも名古屋とかあっち行くと、こういうのを補助つけてますので、新しくつけると七、八万円、今あるやつを少し手をかけると三、四万円できるといふことなんで、ぜひその辺も検討していただきたいと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

お答えいたします。

感震ブレーカーにつきましては、地震発生の際、電気火災の抑制には有効であると思います。そんな中で感震ブレーカー、複数の種類、また留意点も様々、今、議員おっしゃるとおりで、例えばよかれと思って安価なものをつけると、個人でつけて実際に感知しないとか、いろんな課題ありますので、そういった課題を整理した上で、普及啓発に努めていきたいと思っておりますし、また、補助制度につきましては、予算も必要なことから、調査・研究していきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村議員。

○15番（中村 実君）

補助をつけてやるんで、しっかりしたものを設置していただくということに気をつけていただきたいと思います。

まだまだこれから余震もあるかと思しますので、皆さん、市民の安全・安心のために、できる限りの対策をお願いして、私の質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、中村議員の質問が終わりました。

本日は、これにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後4時54分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員